園 長 だ よ り NO 1 0 9

子ども達の進級、卒園、まで、あと2か月あ まりとなりました。 子ども達との生活は時 が経つのがとてもはやいものです。先日、新幹 線のドクターイエローが現役を引退するとい うことをニュースで知りました。子ども達の 育ち(成長)のスピードも新幹線に負けじと 速度を緩めてくれません。しつかりと子ども 達と向き合い、成長を心に記憶にとどめてい きたいと思っています。

乳児保育で大切にしたいこと



と思っています。

きている。

ことに思いを馳せることもない。

子ども達はと言えば、自己の変化、様々な力

の獲得に一喜一憂する。こんなこと、あんなこ

ともできるようなる。人として生きていくた

めの養いたい力がリスト化されていたら、何

十万、何千万、もっとかもしれないが多くの

力や行動の源となるものを獲得していくのだ

この世に命を賜り、誕生を祝福されて生ま

れてきた子ども達、限りなく愛情を注がれ生

こんなことやりたい あんなことやりたい

という意識、思いは 大人の何倍も持ってい

ると思う。だから大人から見れば子ども達の

成長は驚きであり目をみはるものがある。

あんなことできる、こんなことできる





空腹を感じる、排泄時の不快感を感じる、 子どもにとってはどれも不安であり、大げさ ではないが恐怖感を感じることもある。

そんなとき、寄り添う大人、家庭であれば 母親、父親、おじいちゃん、おばあちゃん 保育園であれば身近なクラス担任(園職員) 頼感を抱き、寄り添う大人から離れ、好奇心

アタッチメントは子ども達が不安、恐怖を す。



安心基地(特定の大人)がいるんだという見通 しが持てることが大切と思っています。

例えば

母親と機嫌よく散歩している。

すると犬の散歩をしている人と出会う。

「わんわんと吠えられる」 「ギャーと泣く」 一目散に母親に駆け寄り抱っこされる。不安 な気持ちを温かく優しく受け止められて泣き 止み、感情が立て直される。

「大丈夫だよ」

「○○ちゃんとお友達になりたくて吠えて しまったのかなし

「もう吠えないよ。 大丈夫」 こんなことを繰り返し、感情の調整を二人 でやっていく。

安心感の蓄積があり、心理的なつながりが くことに繋がります。

保育者も寄り添う大人として穏やかに常に 優しく接していくことを心にとめながら子ど もとのアタッチメント通じて「心の育ち」 「心の土台」を作ることを共に歩みたいもの です。

(おおぞら保育園 園長 廣部信隆)

冒頭で子ども達の成長ははやいものですと 言いましたが保護者の皆様も実感しているこ とではないでしょうか、つい先日、初めの一歩 がでた子がいつの間にかトコトコと歩いてし まう、指さしができるようになると言葉がま まならないが意思表示をする、目に入るもの 次々と興味を示す、後期食を食べていた子が 歯が生え咀嚼力が養われてくるとどんどんと 人はどうでしょうか?ある時期から養われて 嚼力が上がったなどと実感することは皆無で ある。普通に歩けるようになると安定した歩 うこともない。 生活する上で当たり前の



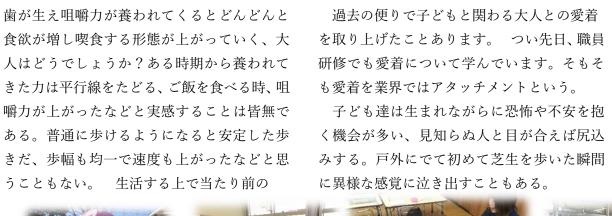












が子どもの不安や恐怖を穏やかで優しい対応 で取りのぞき心をリセット、立ち直らせてく れる、そんな存在があり子ども達は安心感、信 を発揮し様々なものに触れたり、感じたりで きる。その行為そのものが子どもの成長の源 になっている。 不安や恐怖は乳児期~児童 期になっても続く、年齢が高くなれば、その子 の経験や人間関係において軽減や回避、時に は乗り越えることもできるようになってくる。

感じたとき寄り添ってくれる大人がいること、 あると世界を広げ、様々なことを吸収してい 一対一の関係で立ち直らせてくれる存在、特 定の大人と感情の調整ができる。子ども(一人) の感情を二人の関係で調整することと言えま

子どもにとって大切なのは不安や恐怖を感 じた時に泣いたり、声を上げたりする、そんな ときに 信頼できる大人のところに行けば